

03

川西市地域分権推進事業 ニュースレター

第3回地域夢・未来カフェ in 牧の台

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため、「第3回地域夢・未来カフェ in 牧の台」が開催されました。

日時：2012年12月13日（木）10:00～12:00

場所：第1自治会

参加人数：市民19名+市WGメンバー3名

当日のスケジュール

- 10:00 開会・地域分権制度について
- 10:15 当日スケジュール説明・ふりかえり
- 10:25 イントロダクション
- 10:35 テーブルワーク（活動案のとりまとめ）
- 11:40 グループ発表
- 11:55 今後の流れの説明
- 12:00 閉会

当日スケジュール説明～イントロダクション

開会のあいさつと地域分権制度の説明の後、当日スケジュールの説明と第2回カフェのふりかえりがありました。第2回の議論を引き続き行い、最終的な活動案にとりまとめていくことの確認が行われました。また、テーブルワークに入る直前には、イントロダクションとして、「ナンバーズリー」というゲームを行い、チームの一体感を高めました。



テーブルワーク～グループ発表

各グループのテーマ

- Aグループ：誰もが交流できるまちにする
- Bグループ：地域でともに支え合うまちにする
- Cグループ：活気のあるまちにする

テーブルワークでは、第2回に引き続いて活発な議論が行われました。さまざまなアイデアを出し合いながら、具体的に活動案づくりを行いました。

Aグループでは、あいさつを通じた地域のふれあいを促す「牧の台ニコニコプロジェクト」について、Bグループでは地域でともに支え合うまちにするため実行委員会の見直しについて、Cグループでは、駅前などの空き店舗・空き地を活用して若者が集まれるスペースについての話し合いが行われ、最後に全体に向けて、活動案が発表されました。



Aグループ 誰もが交流できるまちにする

子どもを巻き込む

<目的>

- ・低学年から意識づける
- ・子どもが敬語を使えない
- ・地域の人が敬語を教えるべきである
- ・あいさつから教える
- ・×おはよう ○おはようございます

<連携>

- ・コミュニティ推進協議会
- ・PTAや子ども会
- ・牧の台小学校
- ・幼稚園（私立も巻き込む）
- ・児童会がない（昔はあった）

<取組内容>

- ・あいさつした子どもには地域の人がシールを配る
- ・きんたくんシールを配る→10枚でモノがもらえる
- ・スローガンを子どもに考えてもらう
- ・シールの賞品を出す（1位：肉、2位：魚など）

行政からの支援と地域へのアプローチ

<行政からの支援>

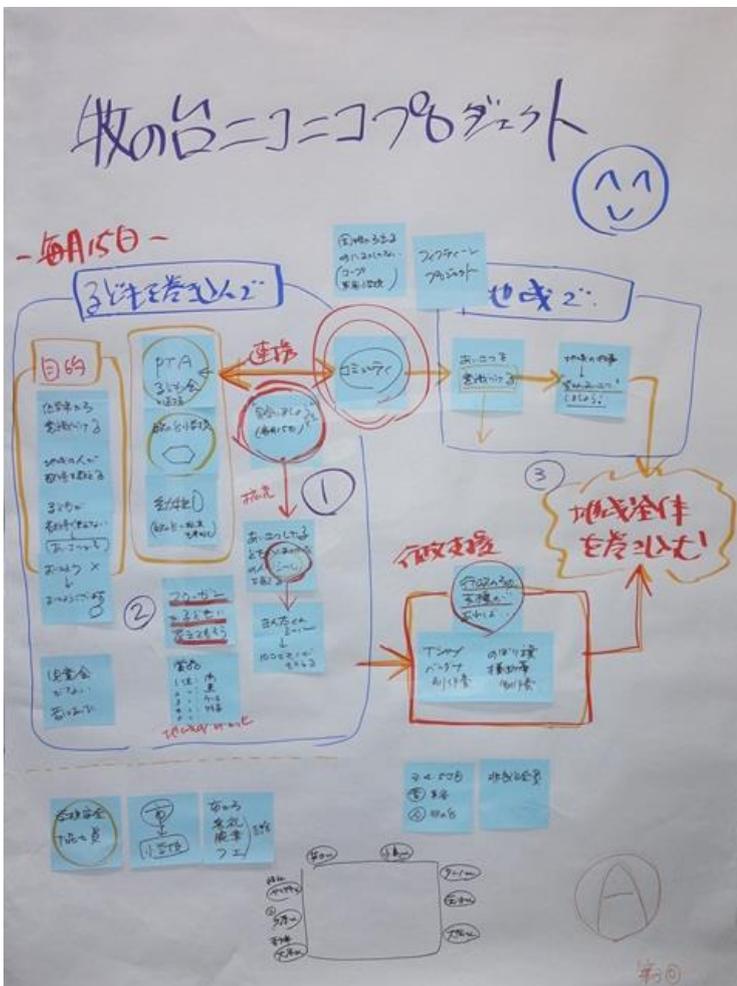
- ・Tシャツやバンダナ等の製作費
- ・のぼり旗や横断幕等の製作費

<地域へのアプローチ>

- ・あいさつを意識づけてもらう
- ・地域の行事で「皆さんあいさつしましょう」と呼びかけてもらう

その他

- ・団地の出入り口は2つしかない（コープと東谷小学校）
- ・学校安全協力員の取組がある
- ・小学校からPTAには、名札、腕章、笛は支給される
- ・3、4、5丁目について、昔は東谷小学校だが、今は牧の台小学校となっている



Bグループ 地域でともに支え合うまちにする

だいわチケットの仕組み（ルール）

＜実行委員会の見直し＞

- ・ 検討グループをつくる
- ・ 規約を見直す
- ・ 若い人が求めていることを反映する
- ・ アンケートで使い勝手をきく
- ・ 会報、利用者の声を参考にする

だいわチケットの運営（人）

＜人材募集＞

- ・ コーディネーターをさらに募集し、給与はだいわチケットの売り上げでカバーする
- ・ 自治会費との連動も検討する

＜サービス利用手順の見直し＞

- ・ もっと利用手順をわかりやすくする
- ・ サービス内容の冊子を全戸配布する

＜勉強会＞

- ・ 地域の人が先生になって講座をする
- ・ 研修が必要ではないか
- ・ 自分たちでも他地域の先進事例を勉強する
- ・ 市が主催する講座を活用する
- ・ 守秘義務（個人情報）をしっかりと伝える

だいわチケットの宣伝方法

＜直接的方法＞

- ・ 口コミが有効的である
- ・ 説明会を開催する

＜地域媒体＞

- ・ 大和ニュースを活用する
- ・ 公園の掲示板を活用する

＜会合＞

- ・ 福祉委員会などで説明する

＜強化月間＞

- ・ キャンペーンをする（横断幕をつくる、駅や夢ナリエなどでPRする）

＜若い世代がよく見るもの＞

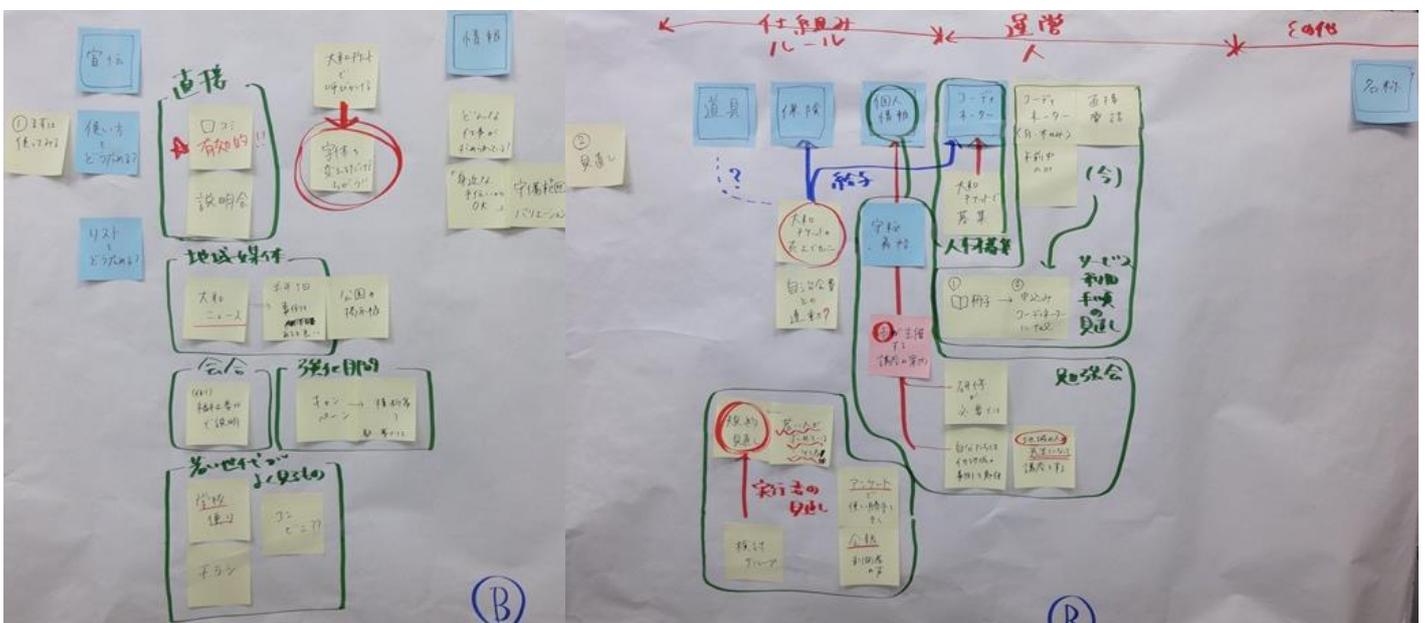
- ・ 学校便りを活用する
- ・ チラシを作成する
- ・ コンビニでPRできないか

＜その他＞

- ・ 大和チケット自体で呼びかける
- ・ 字体を変えるだけで違うのではないか

情報の充実

- ・ どんな仕事求められるかニーズを探る
- ・ もっと身近な手伝いからOKにする
- ・ 扱う範囲のバリエーションを広げる



Cグループ 活気のあるまちにする

カフェのようなたまり場

<カフェ>

- ・千里東町など、実際にやっているところを見学する
- ・1か所ではなく複数つくる
- ・飲み屋がない、地域の人々のたまり場をつくる
- ・いろいろな世代が集まるたまり場にする
- ・女性のネットワークを重視する
- ・火曜日のカフェはあるが、毎日あればうれしい
- ・今ある喫茶店をもっと利用していきたい
- ・もっと場所や営業頻度を、多くしてほしい
- ・全般的に飲食関係が少ない
- ・いろいろなことができるスペースをつくる
- ・集まって飲んで食べる(食材、ケーキは地域の店で注文)

<やりたい人の集め方>

- ・当番はしんどい、やりたい人がやる
- ・やりたい人がいない時→フリースペースとして開放
- ・女性のネットワークを重視する

<まずは場所さがし>

- ・場所はある
- ・オーナーには「地域協力」という視点で説得する
- ・地域分権のなかでサポートしてほしい
- ・家賃をどうするか、独立採算へ

<人集め>

- ・口コミなどでPRする
- ・商店会のお母さん方に協力してもらう
- ・お店の人、近所の人と親しくなる
- ・リフォームなどを一緒に考え、一緒につくる

<運営>

- ・ボランティアだからできる
- ・事業としてやるときびしい
- ・たくさん来てほしい
- ・地域の人のご縁をつくる場所、新しい出会いの場にする
- ・場所を確保、維持していくところ、行政のサポートがあればいい

<地域の店舗と連携>

- ・材料を地域に発注する
- ・連携企画イベント、飲み比べ、聞き酒イベント
(地域の店に発注！)

<日替わり店長>

- ・一人ひとりが郷土料理を出す
- ・地域の人が自分たちの料理を出す
- ・「カフェをやりたい人集まれ！」ここでチャレンジしてもらう

<子ども連れで行きやすく>

- ・こわす、よごすことが心配な面もある
- ・気にせず過ごせる家みみたいなところにする
- ・子どもが学校帰りによるところ、子どもだけでも行けるようにする

<男の人も行きたい！>

- ・夜もあると働いている若い世代も行きやすい

